

3年連続増も競争激化

主要ゼネコン35社 25年度新卒採用

本社調べ

日刊建設工業新聞社が主要ゼネコン35社を対象に実施した人材採用アンケートによると、今春入社予定の新卒採用者数（大卒、高卒などすべてを含む）は前年度比67.8人増の4757人。人と3年連続で増加した。技術系は603人増の3981人となった。ただ採用目標の達成度を示す充足率が100%を上回ったのは14社にとどまる。売り手市場が続く中、各社とも優秀な人材確保に心血を注ぐ。

ゼネコン35社の人材採用状況
(大学・大学院卒、高卒・高専卒などを含む総数)

	2025年度				2026年度予定	
	総数	(実績)	技術系	(実績)	総数	技術系
鹿島	460	(401)	375	(334)	425	365
清水建設	453	(380)	363	(315)	424	353
大成建設	451	(428)	389	(359)	416	366
大林組	413	(359)	361	(308)	400	350
竹中工務店	257	(230)	224	(189)	250	218
長谷工コーポレーション	240	(152)	163	(100)	-	-
五洋建設	204	(169)	175	(139)	205	185
戸田建設	186	(158)	163	(118)	196	171
東急建設	138	(89)	119	(74)	141	124
フジタ	137	(110)	120	(97)	140	126
奥村組	134	(139)	112	(119)	138	106
西松建設	127	(100)	110	(87)	125	110
鴻池組	119	(87)	105	(70)	110	100
熊谷組	117	(119)	89	(97)	124	106
安藤ハザマ	112	(99)	96	(83)	-	-
高松建設	111	(109)	84	(81)	114	84
東亜建設工業	105	(80)	92	(71)	95	85
前田建設	104	(116)	89	(101)	120	110
東鉄工業	100	(81)	94	(74)	125	118
三井住友建設	87	(89)	74	(77)	-	-
東洋建設	87	(77)	75	(70)	84	72
鉄建建設	69	(43)	58	(33)	110	90
佐藤工業	56	(59)	48	(49)	72	61
若築建設	52	(27)	48	(23)	80	72
浅沼組	49	(27)	43	(23)	70	62
大本組	49	(28)	33	(19)	40	32
竹中土木	47	(39)	34	(35)	50	44
飛鳥建設	46	(38)	43	(32)	50	-
大豊建設	43	(50)	38	(43)	60	54
青木あすなろ建設	40	(32)	30	(25)	50	40
大日本土木	40	(31)	31	(29)	45	40
ナカノフドー建設	39	(30)	37	(22)	40	36
日本国土開発	30	(39)	24	(31)	46	38
松井建設	28	(23)	22	(17)	30	25
ピーエス・コンストラクション	27	(41)	20	(34)	50	39

※2025年4月新卒採用総数順。カッコ内は前年度実績。「-」は未定または未回答。

他産業や同業他社との採用競争が激化している状況を指摘した。

各社は待遇改善で働きがい高め、採用の競争力を強化する。初任給は21社が今春に「引き上げた」と回答した。大卒総合職の初任給は、鹿島、大林組、大成建設、清水建設、竹中工務店、奥村組、西松建設、東洋建設、ピーエス・コンストラクションの9社が30万円の大台に乗せる。大林組は賃金のベースアップや賞与の増額分を中堅と若手に手厚く配分し、入社後の定着率向上につなげる。

2026年春以降を見据えた今後の採用方針は「技術系職員（特に施工管理）の人員が不足している」（熊谷組）、「今後定年退職者の増加が見込まれる」（鉄建建設）などを理由に16社が「増やす」と回答した。「横ばい」とした企業では「事業計画に即した採用人数を計画している」（五洋建設）、「各年の採用数を一定にし、バランスの良い社内人数の構成

にしたい」（戸田建設）などの理由が挙がった。採用活動では、各社ともあの手この手で工夫を凝らす。東急建設は文系学部から技術職を採用。奥村組は施工管理職の募集対象を建築・土木系学科に限定せず、採用の門戸を広げる取り組みを試行した。テレビCM

の放映やSNSの積極活用によって学生の認知度向上を目指す企業も多い。中途採用も積極的に行う。従業員が求職中の友人を企業に紹介する「リファラル採用」や、退職者を再雇用する「アルムナイ採用」を取り入れる社が増えている。

